

第5分科会 特別支援学級（自閉症・情緒障害）の教育活動

一人一人が生き生きと輝く特別支援学級 （自閉症・情緒障害）の教育活動

～自他を認め合い、関わりを深める自立活動の在り方～

長岡市立青葉台小学校

教諭 安中順子

長岡市立青葉台小学校

全校児童数：236名

特別支援学級在籍児童：17名

(自閉症・情緒障害学級2、知的障害学級1)

教室のリアル ～多様な特性と葛藤～

ルール遵守
の難しさ



感情コントロール
の課題
(怒る、泣く、他害)

自己中心的な行動
(自分の思いを押し通す)

Aさん(1年生)：集団活動が苦手。理解力が高く、知識も豊富だが、周囲に合わせることができず、マイペースに行動する。気に入らないことがあると暴言や暴力が出る。

Bさん(4年生)：衝動性が強く、落ち着いた行動が苦手。アイデアが豊富な故に、思いついたことを自分勝手に貫こうとする。



指導の羅針盤 ～自立活動の理論的背景～

1. 健康の保持

- (1)生活のリズムや生活習慣の形成
- (5)健康状態の維持・改善

2. 心理的な安定

- (1)情緒の安定
- (2)状況の理解と変化への対応

5. 身体の動き

- (2)姿勢の保持
- (3)日常生活に必要な基本動作

3. 人間関係の形成

- (2)他者の意図や感情の理解
- (3)自己の理解と行動の調整
- (4)集団への参加の基礎

4. 環境の把握

- (4)必要な情報を集め、周囲の状況の把握し、状況に応じた行動

6. コミュニケーション

- (5)状況に応じたコミュニケーション

なぜこの3つが重点なのか？

心理的安定を土台とし、「自分のルール」から「集団のルール」へ。相手を意識し、自分の感情と行動をコントロールする力を育むため、この3区分を重点目標に設定。

1年間の大まかなスケジュール

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
予 定	自立活動「フレンズタイム」											
	フレンズ進級・入学を祝う会 (フレンズ顔合わせ会)			(今年度のみ) フレンズフェスティバル		②カフェ活動1回目	①居住地校交流1回目 (2名それぞれ別日)		③お楽しみクリスマス会 & ①居住地校交流2回目 (2名それぞれ別日)	②カフェ活動2回目		④フレンズ6年生 ありがとうの会

1. 他学年の仲間と かかわりを深める自立活動 「フレンズタイム」

自立活動の時間を週の帯で実施！

	月	火	水	木	金
1時間目	←フレックス学級での学習は全員自立活動→				
2時間目					
3時間目					
4時間目					
5時間目					
6時間目					

他の時間は
個別に対応

活動内容（ゲーム）を決めて、やり方やルールを確認

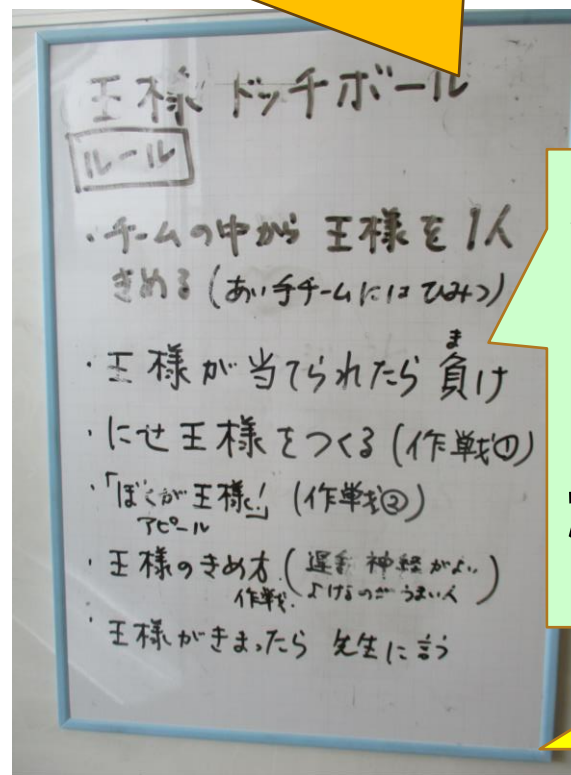
**話し合いと多数決で
何をするか決める。**



**教師が出した条件とみんな(1～6年生まで)ができて、楽しめるとい
う条件を満たすゲームにする。**

支援のポイント:ルールを視覚化

※「事前」がポイント！



**ゲームのやり方
を共通のルール
としてみんなで
確認する。**

**活動を始める前にやっておかない
と、勝手なルールが生まれたり、
トラブルになったりしやすい。**

振り返り

活動が終わってから、みんな
で振り返りをします。

支援のポイント：振り返りする項目

- ・ルールを守れた？
- ・みんな1回はボールを投げた？
- ・友達に嫌なことをしたり、言ったりしなかった？
- ・ちくちく言葉は使わなかった？



2. 自立活動の視点を入れたその他の活動 「4つのイベント活動」

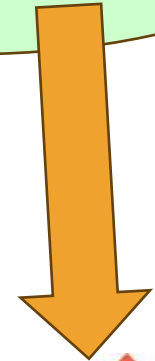
(1) 相手が喜んでくれることを考えた 居住地校交流

ねらい

交流会を通して

○お招きする児童の情報を
もとに、おもてなししよう
とする

青葉台小学校区



特別支援学校

Hさんの好きなダンス 「エビカニクス」を 一緒に踊ろう

体を動かすことが好きなKさんと
サーキット運動をみんなでやろう

支援のポイント：
支援学級にいる
1年生をお手本
にして、できそう
な活動をみんな
で考える時間を
設けた。

支援のポイント：事前に練習し、自信
をもって活動できるようにする。



(2) 成功体験を重ね、自信をもって接客した 「カフェ活動」



ねらい

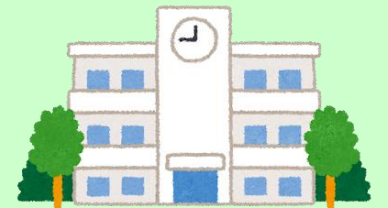
地域のお客様

来校者に飲み物のサービスをするという
相手意識をもてるような接客体験を通して



○お客様に喜んでもらおうと、
おもてなしすることができる

青葉台
小学校



子どもたちの姿

支援のポイント：児童に向けて、運ぶ際に
気を付けることを声掛けした。

コーヒーをどうぞ



支援のポイント：練習する時間を設け、
自信をもって取り組める
ようにした。



熱いので
気をつけて
ください

お砂糖と
ミルクを
どうぞ



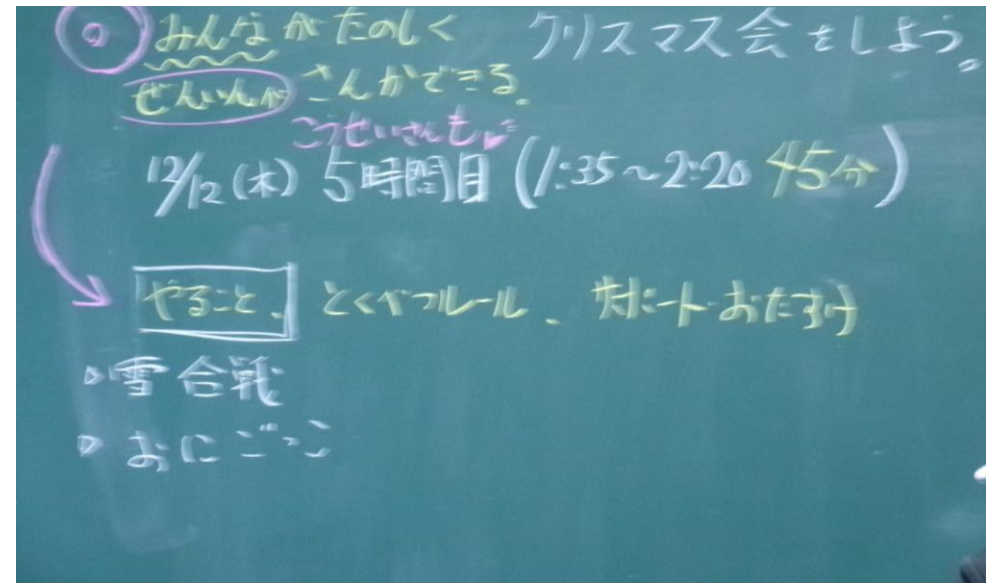
(3) みんなが楽しめることを目指した 「お楽しみ会をしよう」

ねらい

みんなが楽しめるお楽しみ会
の企画・運営を通して



○みんなが楽しむために譲ったり、
我慢したりできる



支援のポイント:意見が出たら「みんなが
楽しめるかな」と立ち返り、何度も考え直し
の時間をとった。

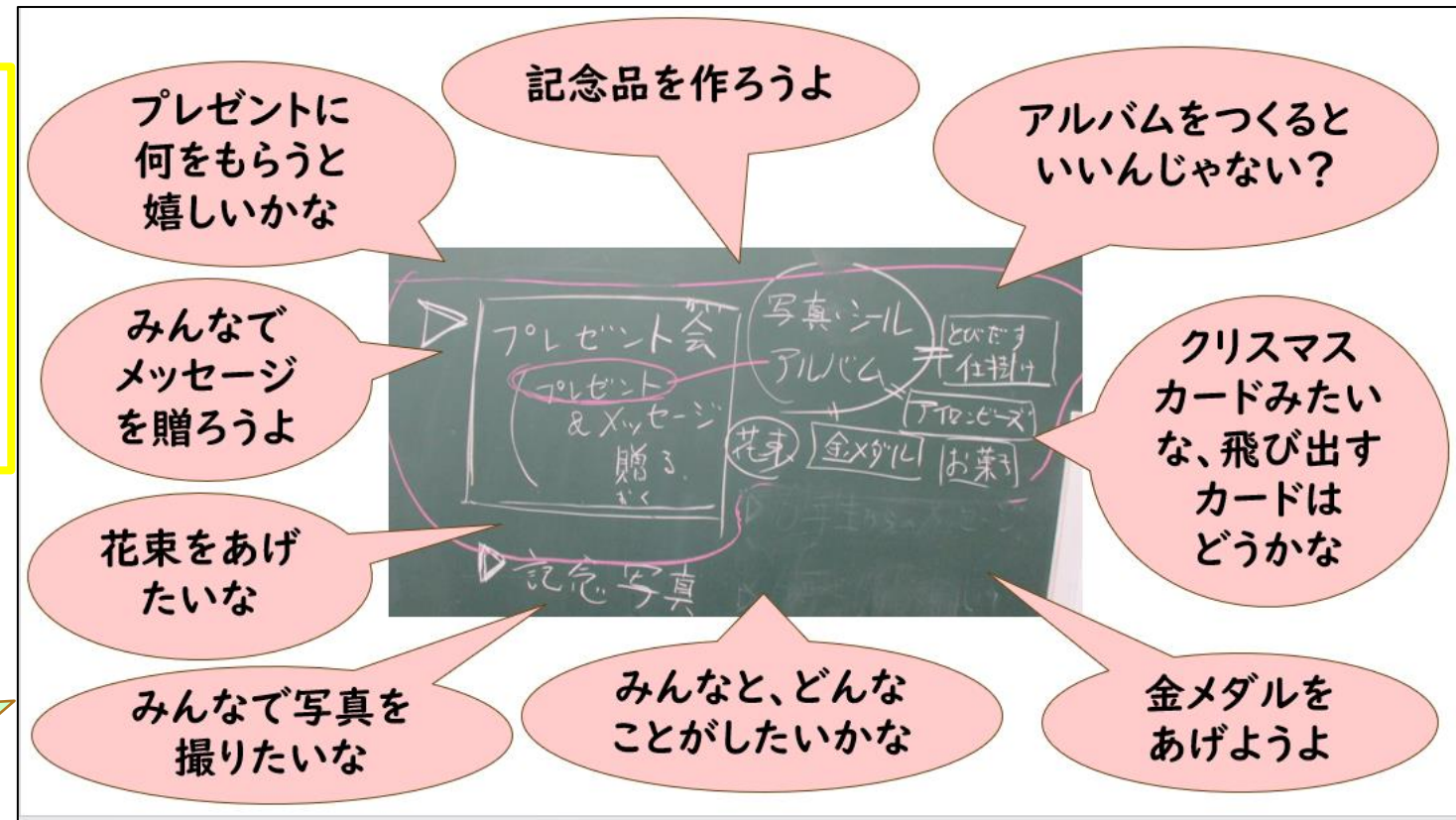


(4) 感謝の気持ちを伝えられた 「フレンズ6年生ありがとうの会」

ねらい

○6年生に喜んでもらうことを目指した言動が自発的に出る

1～5年生で話合いからスタート。
これまでの経験からたくさんアイデアが出ます。





3. 経験を踏まえて 取り組んだ フレンズフェスティバル

本単元の構想：成功体験を次へのステップへ

Step 2：本単元（フレンズフェスティバル）

内容・道具・役割を「自分たちで
全て計画・準備する」夏祭りへ
ステップアップ。



Step 1：過去の経験（居住地校交流）
お客さんへの「おもてなし
(カフェ・クリスマス会)」で得
た達成感と自信。



単元の目標

- みんなが楽しめるお店を考え、自分の役割に取り組みながら楽しむ。
- 仲間の意見を聞き入れ、声を掛け合って協力する。
（【人間関係の形成】
【コミュニケーション】）

授業づくりの3つの柱 ～安心と意欲を支える設計図～

子どもたちから「やりたい！」を引き出し、自らアイデアを出し合える遊びやゲームを設定。

効果：自主性と意欲の向上。

魅力的で
楽しい

経験を
活かせる

安心・意欲・自信の獲得

見通しをもてる

完全に未知のことではなく、今までの交流会で経験した内容を少しステップアップさせる。

効果：成功体験による「自分にもできる」という自信。

何をするのか、自分の役割は何かを徹底的に可視化・反復練習する。

効果：新規場面への不安解消と心理的安全性。

不安を取り除き、意欲を高める具体的な手立て

7月

日	月	火	水	木	金	土
		1 🏠	2 🔴	3	4	5 →
6	7 🏠	8 🟡	9	10	11	12
13	14 おみせのじゅんぴ	15 🟢	16	17	18	19
20	21	22	23	24 🏟️	25	26
27	28	29	30	おためしフェス		

【見通し】7月の予定表の視覚化。「おみせのじゅんぴ」「おためしフェス」など先の予定を明示。



【言葉のモデル】「ハッピーワード」の掲示。「いいね」「いっしょにやろう」など、使ってほしい言葉を日常的にインプット。



【協働作業】看板・道具作り。役割分担を明確にし、仲間と協力して作り上げる経験。

繰り返し練習とリハーサルによる不安解消



**本番同様のシミュレーション
(お試しフェスティバル)**

一連の流れを本番通りに行い、「何をするのか分からない」不安を完全に排除。

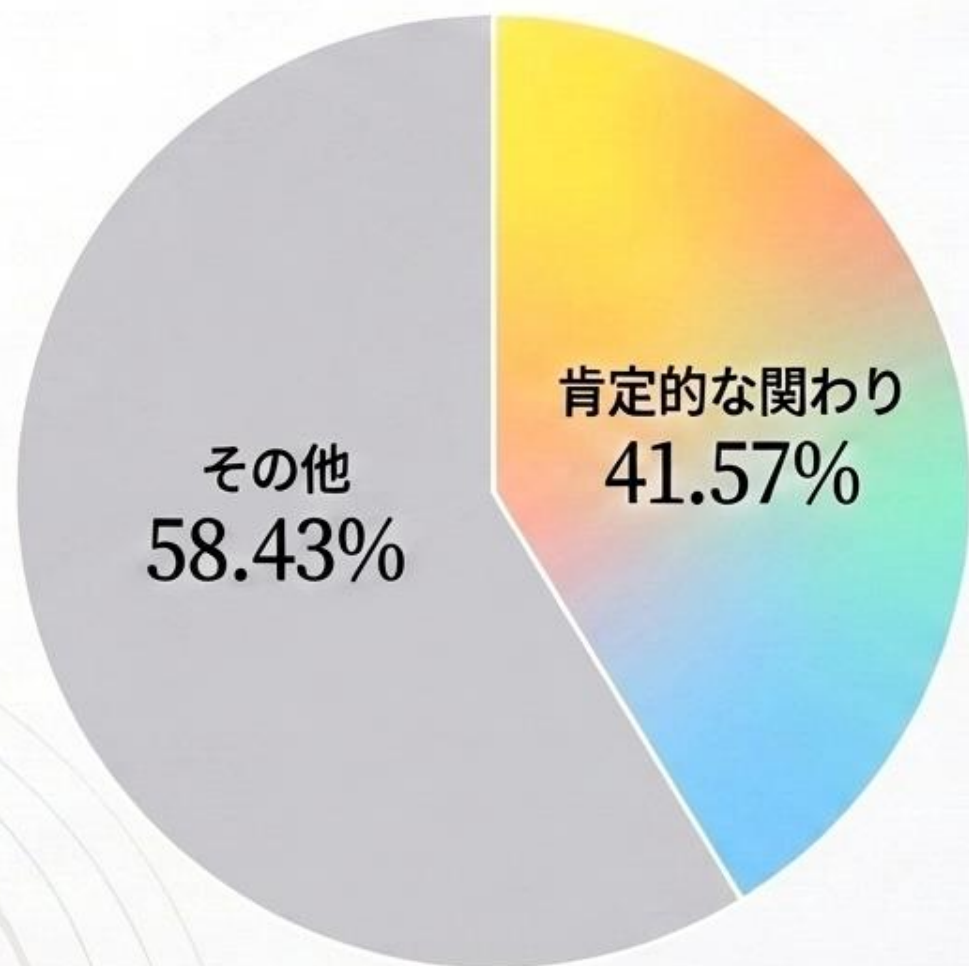
振り返りと価値づけ

活動を意図的に途中で止め、グループ内で「他のお店の良かったところ」や「お客さんのハッピーポイント」を見つけて言語化・発表。

視覚的な報酬

適切な言動や気遣いができた際には、その場で「ハッピーシール」を付与。望ましい行動を即時強化する。

授業内発話における「肯定的な関わり」の圧倒的割合と構造的内訳



全発話数: 267文

肯定的な関わり
(ポジティブワード) : 111文

111文の内訳 (構造的な内訳)

- 称賛・肯定的なフィードバック (27.34%)
- ホスピタリティ推奨・配慮 (5.99%)
- 感謝・労い (4.12%)
- 励まし・応援・受容 (4.12%)

4. まとめ

児童の特性、個人目標、および成長の姿

Aさん(1年生)

特性・実態:

新規場面への不安が強い。集団に合わせることができず、マイペースで自分勝手に行動してしまう。

個人目標:

見通しをもって自発的に自分の仕事や全体の流れに参加する。

成長の姿

課題の壁

見通しが立たない不安からの離脱、マイペースな行動

支援の手立て

準備・練習時間の確保、詳細な説明、徹底したリハーサル

具体的な成長・変容

「見通し」をもつことで自発的に参加する姿が見られた。

Bさん(4年生)

特性・実態:

衝動性が強く、落ち着いた行動が苦手。アイデアが豊富な故に、思いついたことを自分勝手に押し通そうとする。

個人目標:

衝動を抑え、仲間への思いやりをもって協力行動ができる。

成長の姿

課題の壁

衝動性と自分のアイデアを優先する姿勢。

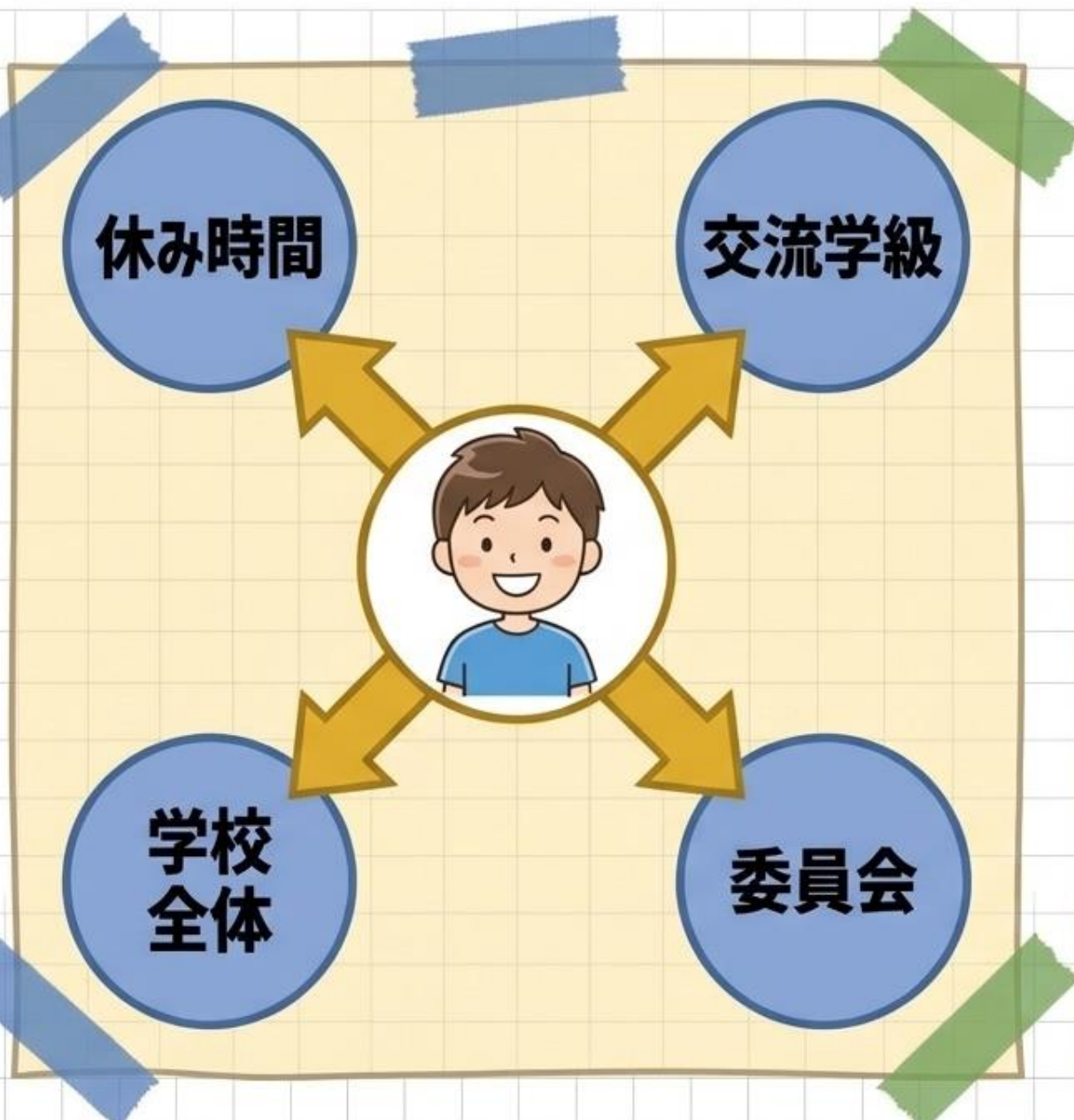
支援の手立て

ルール遵守の「事前承認」、衝動抑制時の即時評価。

具体的な成長・変容

衝動的な行動を抑え、仲間への思いやりの気持ちをもって活動に取り組む姿が見られた。

今後の課題：交流学級・学校全体への「般化」



特支学級で身につけたスキルを、学校全体の日常へと広げる。

特別支援教育は「チーム戦」：

- ・交流学級担任・職員全体での情報共有（日頃の会話、職員終会での周知）。
- ・「何ができるようになったか」「どんな様子が見られたら褒めてほしいか」を具体的に教職員全体へ依頼。
- ・活躍できる役割の意図的な割り振り（児童会祭り等への応用）。

青葉台小学校では・・・

まずは交流学級担任の先生と

在籍するこどもについて、日頃から話題にして情報交換を行う。特支学級でできるようになったことを伝えて、交流学級でも同じような役割ができるようお願いをしておいたり、本人の希望があったときは担当できるように配慮してもらったりする。

職員全体に情報共有

毎週行われる職員終会での児童の情報交換の時間に、在籍する子どもの情報を伝える。何をがんばっているか、また、何ができるようになって、どんな様子が見られたら褒めてもらうか等を依頼しておく。





特別支援教育はチーム戦
子どもたちに「安心」と「自信」を。

ありがとうございました。